

取扱説明書

FULL AUTOMATIC EXTINGUISHING SYSTEM

ABLE

放電加工機用自動消火装置

A H F - 3

A H F - 6

目次

1 はじめに	3
2 概要	3
3 仕様	4
4 設置工事手順	5
5 同梱品	5
6 機器詳細	6
7 キャビネットの取付	8
8 ノズルおよびサーミスタの取り付け	10
9 配管工事	11
10 配線工事	13
11 作動試験	16
12 火災警報の作動	18
13 火災警報作動後の処置	18
14 故障した時の処置	19
15 部品の交換について	20
16 取り付け時確認事項	21
17 参考資料	22

ヤマトプロテック株式会社

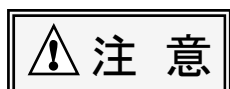
安全の為に必ずお守り下さい

本取扱説明書には、本装置を安全にお使い頂く為に、必ずお守り頂くことを「警告」「注意」に分けてお知らせしています。

あなたや他の人への危害や物的損害を未然に防止する為に必ずお守り下さい。



「警告」とは、この表示を無視したり、取り扱いを誤った場合、死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



「注意」とは、この表示を無視したり、誤った取り扱いを行った場合、傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が予想される内容を示しています。

★ 取扱説明書の使い方

- (1) この取扱説明書には、本装置を使用するにあたって必要な情報が記載されています。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みになり、本装置を正しくお使い頂きますようお願いいたします。
- (2) 使用方法を誤ると、十分な性能が得られないだけでなく、誤動作及び事故や故障につながる場合があります。
- (3) この取扱説明書は、読み終わった後、実際に管理される方がいつでも見られる場所に保管して下さい。

★ おことわり

- (1) 本書に収録したものは、全てヤマトプロテック株式会社に著作権が帰属します。無断転載、複写は禁止します。
- (2) 本書に収録した内容は、製品の改良等の為、予告なしに変更する場合があります。
- (3) 製品の仕様は、2011年10月現在のものです。

■安全のために、必ずお守りください。

 警告	(1) 火災発生時には、すみやかに火元から離れてください。 ・ 燃焼物、消火剤の飛散により、ヤケドなどの事故が発生する恐れがあります。 (2) 排気用装置を設ける場合には、起動、又は感知と連動して停止（ダクト閉又はファン停止）する様に構成してください。
 注意	(1) 消火性能を維持するため、日常、下記の事項を確認してください。 ・ 電源灯（緑色）が間欠点灯（120秒間に1回）しているかを確認してください。電源灯が消えている時は、電源スイッチがOFFになっているか、動作電池が消耗していません。原因を調べ監視状態に復旧させてください。 ・ 貯蔵容器の指示圧力計（ゲージ）の指針が緑色範囲内〔7.0～9.8（×10⁻¹MPa）〕にあるか確認してください。圧力が低下していると十分な能力が発揮されず、放射されない場合があります。 ・ 感知器・放出ノズルの変形、ゆるみ、および配線、配管に損傷がないかを確認してください。感知特性、消火薬剤放出範囲などが変わり、確実な火災報知や消火ができなくなる場合があります。 ・ 感知器に多量の油脂など、固着物が付いていないかを確認してください。感度が低下して火災検知が遅れ、十分な消火性能が発揮できなくなります。 ・ 火災時以外は手動起動押しボタンを押さないでください。 ・ 本装置の試し放射（操作）は、しないで下さい。 そのまま放置されますと火災時に使用することが出来ない場合があります。 ・ 消火薬剤の有効期間は8年間です。感知器・ガス発生器の有効期間は4年です。必ず有効期間内に交換してください。 ・ 外観機能点検（6ヵ月点検）、総合点検（1年点検）は当社に依頼し、必ず実施してください。 (2) 取り付け時の注意について ・ 制御盤部に水滴、油滴、金属粉等が進入しない箇所へ設置してください。 ・ 振動、衝撃のある箇所には設置しないようにしてください。 ・ 使用温度範囲(0～+40℃)を超える場所、結露の発生する場所には設置しないでください。 ・ キャビネットが変形しないように取り付けてください。 ・ 配管内に異物が入らないように注意し、接続部ネジは確実に締め付けてください。 ・ サーミスタ、各移報間の試験は取扱説明書に基づいて実施してください。 ・ 施工には、危険な作業もあります。保護眼鏡、防護面等またその他必要に応じた保護具を着用して作業を行って下さい。 ・ 銅管に損傷・変形がなく、ノズルがセットされた位置に取り付けてください。 ・ 電気配線被覆に傷がつかないようにしてください。 ・ 作動試験で高温を扱うときは、やけどに充分注意し、試験を実施してください。 ・ 開放器を取り扱う前に内容を十分理解して行って下さい。 ・ 設置工事の際は必ず接地工事を行って下さい。 ・ 泡消火薬剤は、指定されたものを用いて下さい。 (3) 消火剤放射後の処置・注意について ・ 消火剤の放射後は被射体の表面に付着した消火剤を完全にふき取り、十分に乾燥させてください。 ・ 消火時は被射体に近づかないでください。被射体に覆いがあるときは消火が確認されるまでは開けないでください。 ・ 泡消火薬剤が目に入った時は、直ちに大量のきれいな水で洗い流して下さい。充血したり目に痛みを感じた時は、専門の医師の診察を受けて下さい。 ・ 放射した泡消火薬剤が放電加工機などに掛かったまま放置しておくと塗装にシミを生じたり、金属類を腐食させる場合があります。速やかに水で洗い流して下さい。電気器具などに消火薬剤が飛散した場合には、専門の業者にご相談下さい。 ・ 消火後は制御盤の電源スイッチを切り、移報関連の処理をして安全を確認してください。 ・ 起動後は、ノズル、配管内を十分にクリーニングしてください。 ・ 起動後は、消火剤、開放器、ノズル部分の交換、および装置の機能試験が必要となりますので当社に依頼してください。

1 はじめに

- (1)放電加工機用エイブルは、主に引火点が 70℃以上の危険物(消防法第 2 条第 7 項に規定される危険物)を加工液として使用する放電加工機に使用する自動消火装置です。安全で確実な消火活動を確認する為にこの取扱説明書をよく読んでからご使用下さい。
- (2)放電加工機の自動消火装置は消防法で指定された消火装置とは違いますが、火災予防条例(例)「第十条の二 一の四項」にて「加工液に着火した場合に自動的に消火する装置を設けること」を求められています。
- (3)放電加工機用エイブルは、危険物保安技術協会が実施する型式試験確認に適合しています。

表 1 型式試験確認事項概要

項目	型式	
	A H F - 3	A H F - 6
確認年月	平成 23 年 10 月 11 日	
確認番号	第 YP23-01-00 号	第 YP23-02-00 号

2 概要

本装置の構成は、「本体（消火剤）」、「泡放出口」、「サーミスタ(感知部)」及び、「ホース・銅管」から構成されています。図 1 に装置構成図を示します。

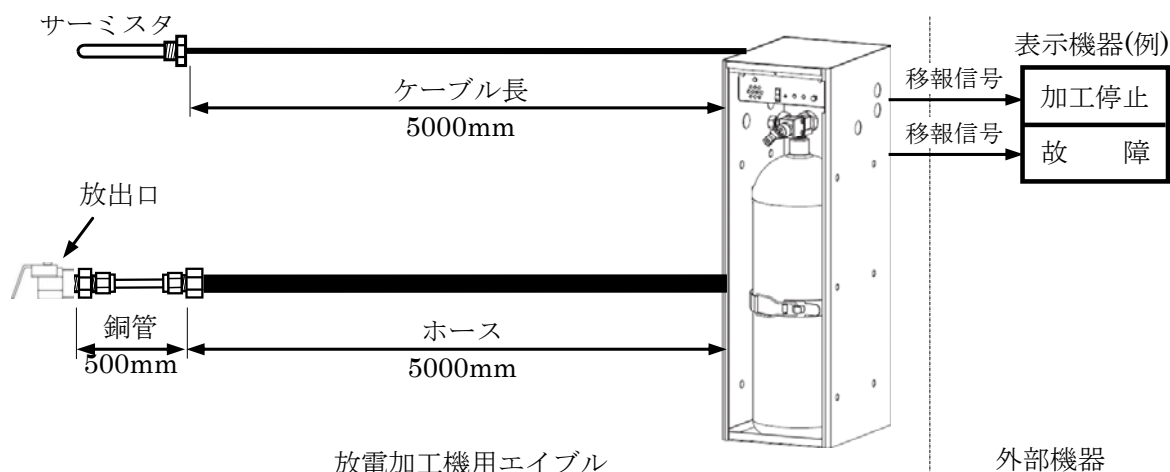


図 1 装置構成図（A H F - 6 の場合）

3 仕様

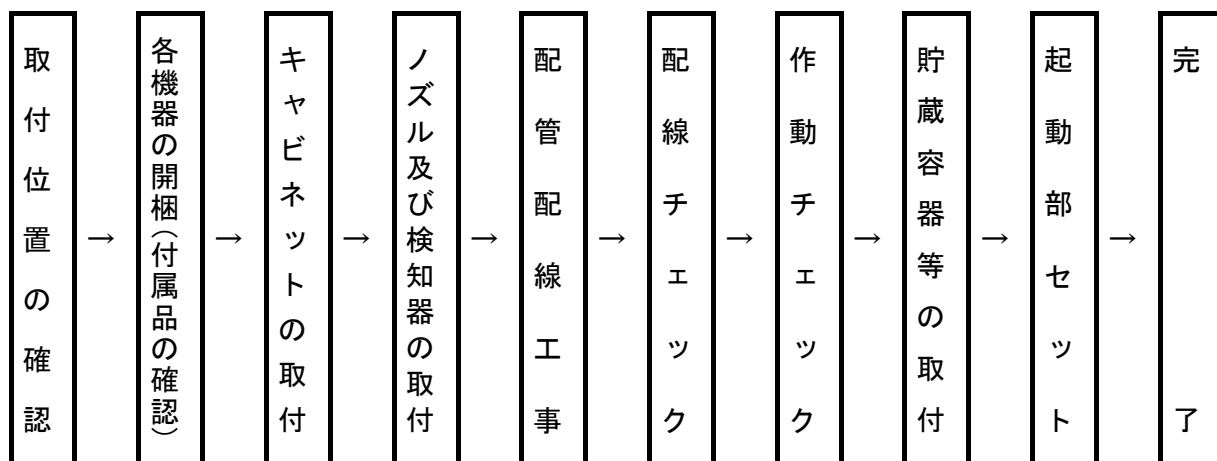
本装置の仕様を表 2に示します。

表 2 仕様一覧

項目		仕様	
製造型式		A H F - 3	A H F - 6
消火薬剤	種類	消火器用消火薬剤 機械泡(水成膜) 薬第 21～1 号 (「消火器用消火薬剤の技術上の規格を定める省令」 第 4 条(泡消火薬剤))	
	容量	3.5L	6.0L
最大防護面積		0.7m ²	1.2m ²
放射時間		約 55 秒	約 90 秒
感知部の種類及び作動温度		サーミスタ、70℃。	
感知器 及び放出部	設置個数	各 1 個	
	設置位置	感知部 (1) 感知部は、放電加工機の加工槽の角部上面に取付けること。 (2) 感知部の取付方向は、加工槽の中央部に向けて取付けること。 (3) 感知部は先端から 25mm 以上が加工槽内に出るように取付けること。 放出部(加工槽に水平に取付ける場合) (1) 放出部は、放電加工機の加工槽の角部上面に取付けること。 (2) 放出部の取付方向は、加工槽の中央部に向けて取付けること。 (3) 放出部は放出口が加工槽内に出るように取付けること。 放出部(加工内に垂直に取付ける場合) (1) 放出部は加工槽内部の角部に挟み込む形状で取付けること。 (2) 放出部の取付方向は、加工槽の中央部に向けて取付けること。 (3) 放出部は加工液面が変動しても、放出部先端が加工液液面に触れない よう取付けること。また放出部先端の拡散板と同じ高さに加工槽壁面 に開口が無い場所に取付けること。	
加圧容器等		蓄圧式	
泡消火薬剤 貯蔵容器	容量	6.0L	10.0L
	材質	S P C C(口金部は S U S)	
	使用圧力範囲	0.7～0.98MPa	
放出部	形状	小型ノズル	
	材質	本体:真鍮製、拡散板:SUS304	
導管	材質	ホース(5m): 合成ゴム、塩化ビニル	
		銅管(0.5m)	
	口径	ホース(5m): 外径 φ 14.5mm、内径 φ 8.3mm	
銅管(0.5m): 外径 φ 8mm、内径 φ 6mm			
起動装置		ガス発生器式	
外装	材質	SECC	
	構造の概要	板厚 1.0mm(底部は 1.6mm)	
	固定方法	アンカーボルト M10×4 本	
電源		DC3V リチウム電池×2 本	
消火薬剤放出方式		自動又は手動(押ボタン)	
警報ブザー		スピーカ	
表示灯		電源/故障灯、火災灯	
総重量		約 16kg	約 21kg
格納箱寸法		高 600×幅 203×奥 230mm	高 800×幅 203×奥 230mm
使用温度範囲		0～40℃	
移報		加工停止移報と故障移報(電池電圧低下、故障(開放器断線・短絡他))	

4 設置工事手順

設置工事は下記の手順で実施してください。



5 同梱品

名称		個数	確認
1	本体（貯蔵容器組立品、開放器、ガス発生器を含む）	1 台	
2	開放器用ケーブル（ダミーコネクタ付）	1 式	
3	サーミスタ（コネクタ・ケーブル 5 m 付）	1 個	
4	ノズル	1 式	
5	銅管（0.5m）	1 本	
6	ホース（5m）	1 本	
7	エスシーロック（φ 8 用）	1 個	
8	移報用コネクタ	1 個	
9	サーミスタ用コネクタ	1 個	
10	ソケットコンタクト（移報用コネクタ用）	10 個	
11	銅管継ぎ手用予備リング（φ 8 用）	5 個	
12	銅管固定用パイプバンド	2 個	
13	銅管固定用パイプバンド取付ビス（W、S W 付）／六角ナット	2 セット	
14	ハーフユニオン（φ 8 用）	1 個	
15	エルボハーフユニオン（φ 8 用）	1 個	
16	施工時機能確認シール	1 枚	
17	引渡し確認書	1 部	
18	取扱説明書	1 部	

6 機器詳細

6.1 消火ユニット

消火ユニットの詳細図を図 2 また図 3 各機器の名称と機能を表 3 示します。

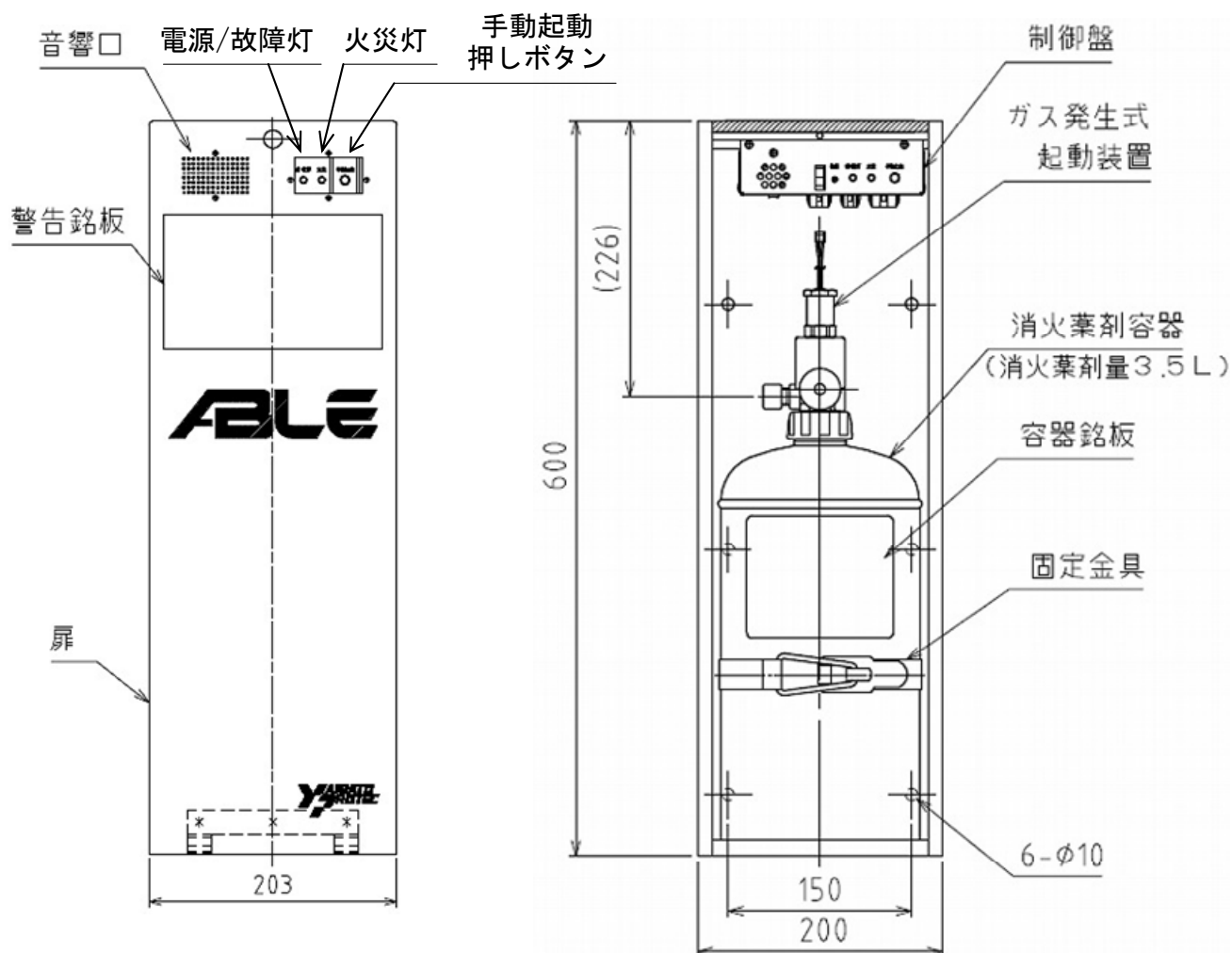


図 2 構造図 (AHF-3 の場合)

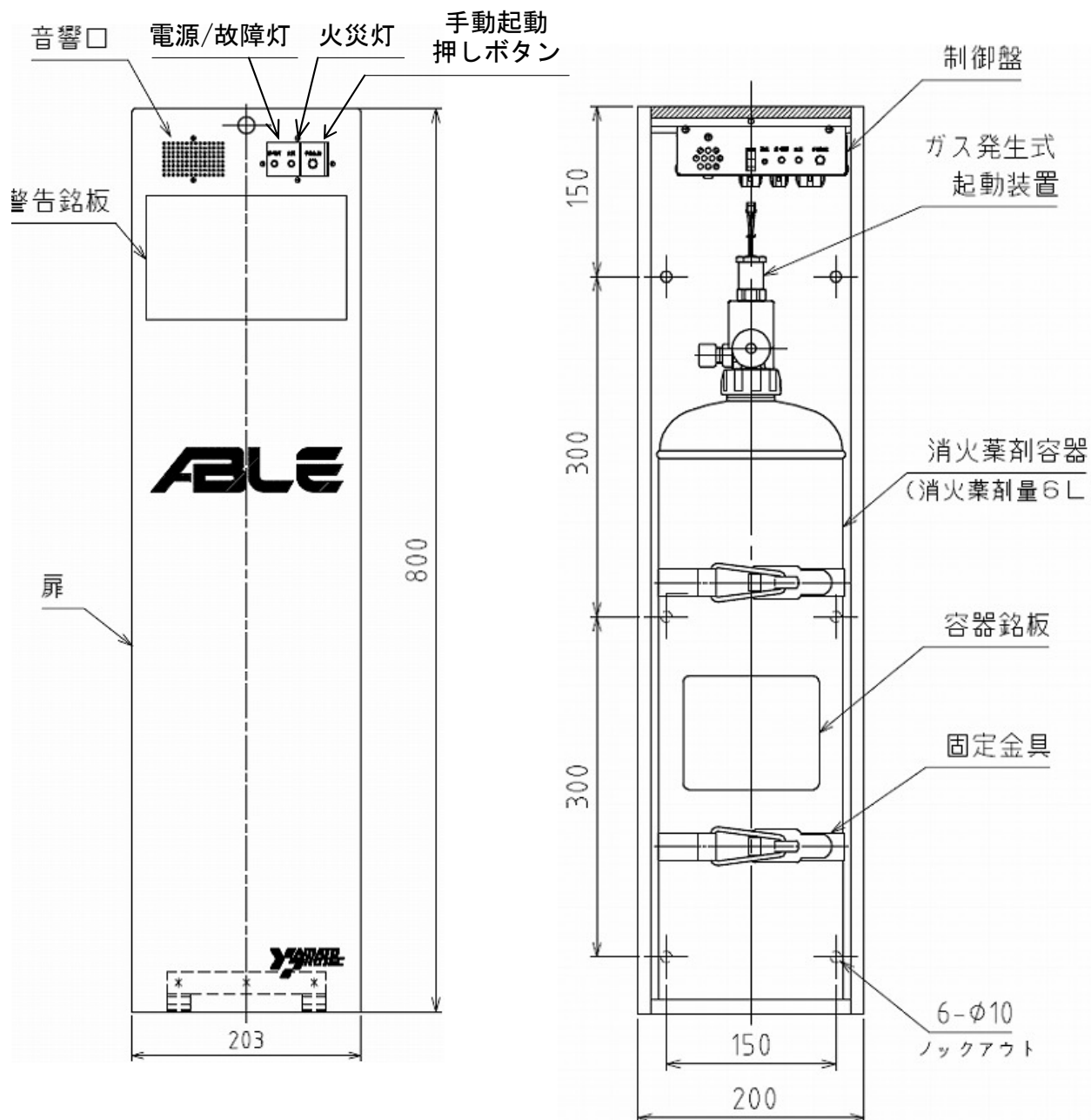


図 3 構造図 (AHF-6 の場合)

表 3 各機器の名称と機能

	名 称	機 能
①	格 納 箱	内部に貯蔵容器組立品や制御盤を格納する本体ケースです。
②	貯蔵容器組立品	泡消火薬剤が充填されています。
③	制 御 盤	本装置を制御します。
④	起動装置組立品	制御盤からの電気信号で、貯蔵容器内の泡消火薬剤を放出させます。
⑤	ブラケット	貯蔵容器組立品を格納箱に固定する金具です。
⑥	容器銘板	本装置の仕様の一部が表示されています。
⑦	警告銘板	

7 キャビネットの取付

キャビネットから貯蔵容器を取り出してください。

キャビネットの取付穴を利用して取付面に固定してください。

取付位置

- 手動起動押釦を容易に操作できる位置に取付けてください。
- ノズルまでの距離が5 m以内となるよう取付けてください。
- 水などがかからない位置に取付けてください。
- 日常の点検が容易にできる場所に取付けてください。

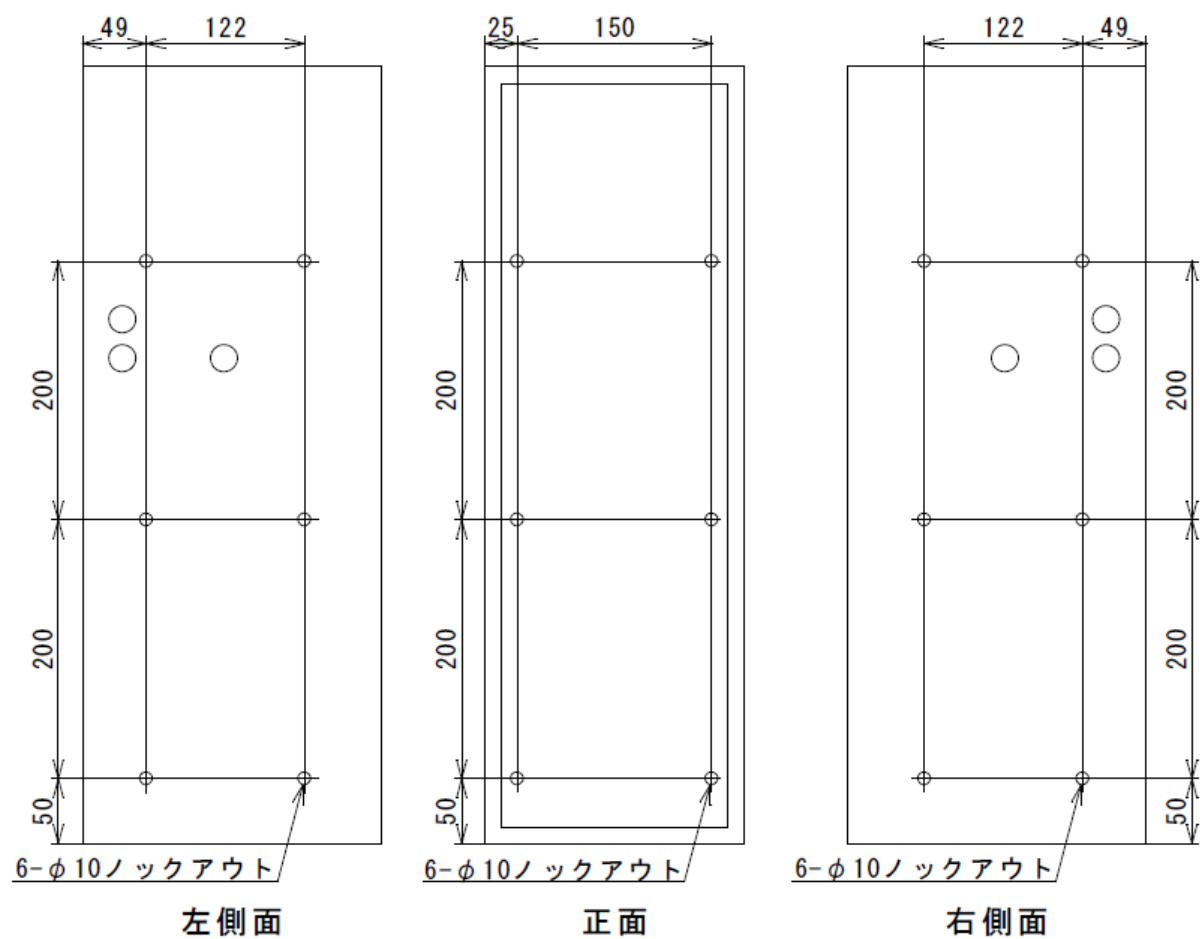


図 4 AHF-3 キャビネット取付ノックアウト寸法 (単位: mm)

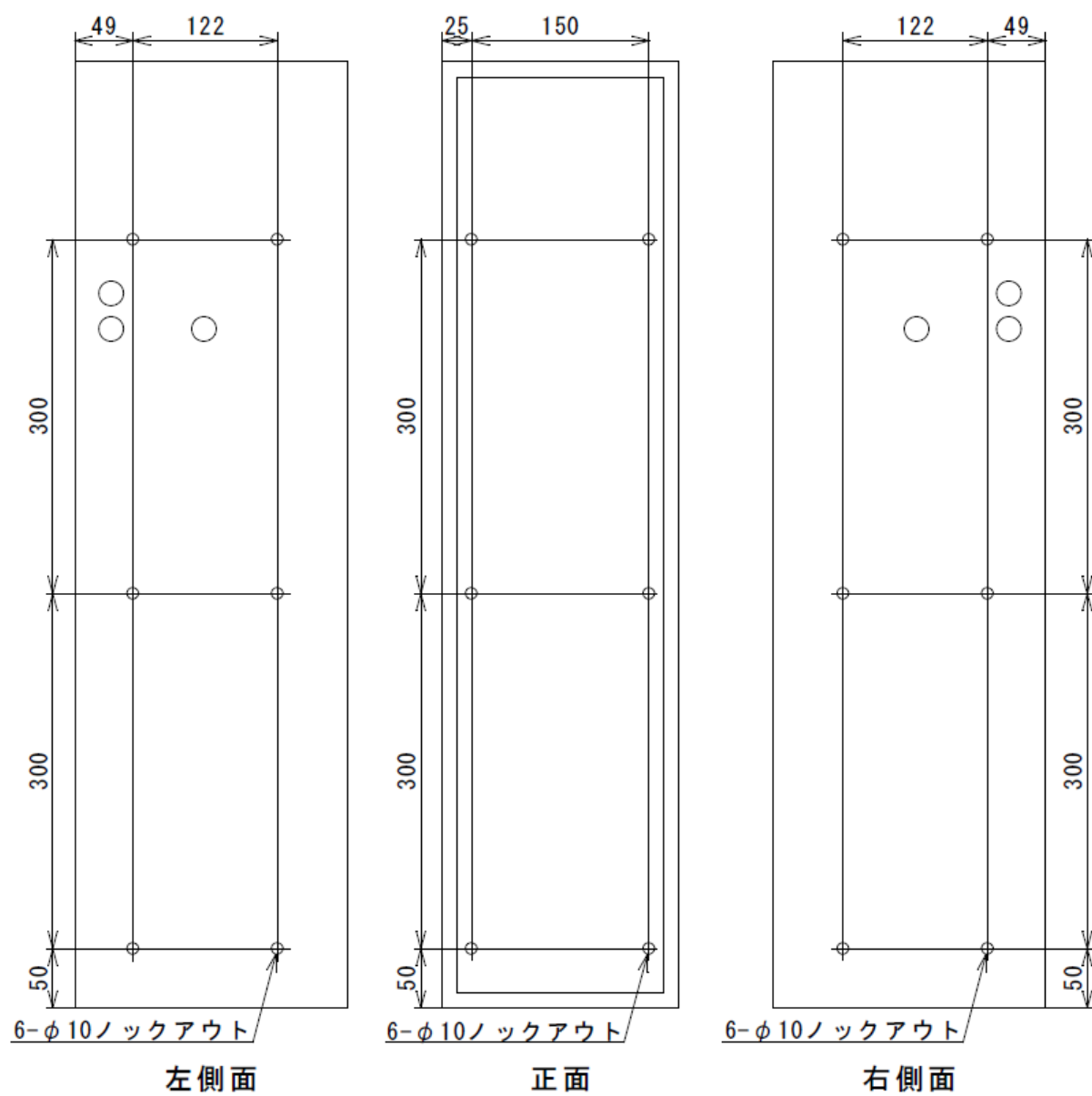


図 5 AHF-6 キャビネット取付ノックアウト寸法 (単位: mm)

8 ノズルおよびサーミスタの取り付け

放電加工機へのノズルおよびサーミスタの取り付け方法については、次の要領により取り付けを行ってください。なお設置の方法等については、必ず事前に当社販売担当者にお問い合わせ下さい。

8.1 ノズルを加工槽液面と水平に取り付ける場合

- (1) 感知部及び放出部は、放電加工機の加工槽の角部上面に取り付けてください。
- (2) 感知部及び放出部の取付方向は、加工槽の中央部に向けて取り付けてください。
- (3) 感知部は先端から **25mm** 以上が加工槽内に出るように取り付けてください。
- (4) 放出部は放出口(円内)が加工槽内に出るように取り付けてください。
- (5) 放出部を加工槽から離して取付けないで下さい。必ず加工槽の角部上面に取り付けてください。

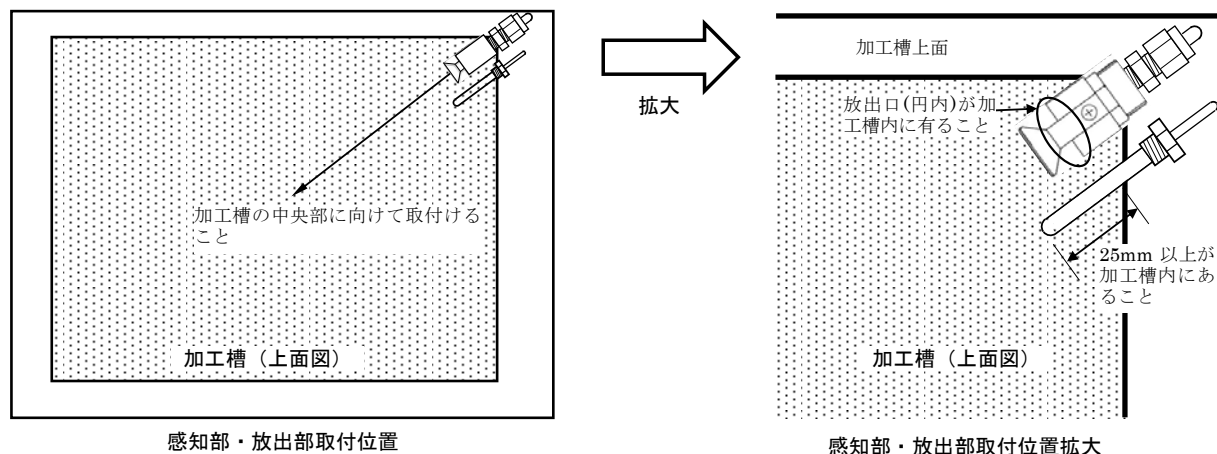


図 6 ノズルを加工槽液面と水平に取り付ける場合

8.2 ノズルを加工槽液面と垂直に取り付ける場合

- (1) 感知部は、放電加工機の加工槽の角部上面に取り付けてください。
 - (2) 放出部は加工槽内部の角部に挟み込む形状で取り付けてください。
 - (3) 感知部及び放出部の取付方向は、加工槽の中央部に向けて取り付けてください。
 - (4) 感知部は先端から **25mm** 以上が加工槽内に出るように取り付けてください。
 - (5) 放出部は加工液面が変動しても、放出部先端が加工液液面に触れないよう取り付けてください。
- また放出部先端の拡散板と同じ高さ加工槽の壁面に開口が無い場所に取り付けてください。

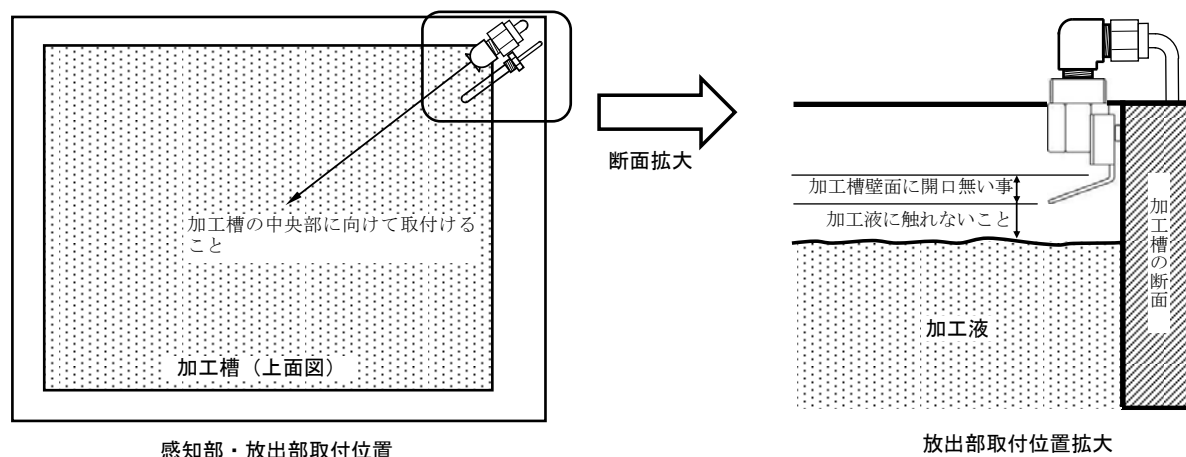


図 7 放出部を加工槽液面と垂直に取り付ける場合

9 配管工事

ノズルから消火剤を噴射するために、消火剤の貯蔵容器からノズルまでを、付属の銅管でつなぐ作業を行います。

配管は付属の JIS H3300（外径 8mm）を使用してください。

キャビネットから 1 つのノズルまでの配管長は 5.5m 以内(ホース:5m、銅管:0.5m)としてください。

銅管の曲りはベンダーなどを用いて施工してください。

銅管は付属のパイプバンドなどを使用して固定してください。

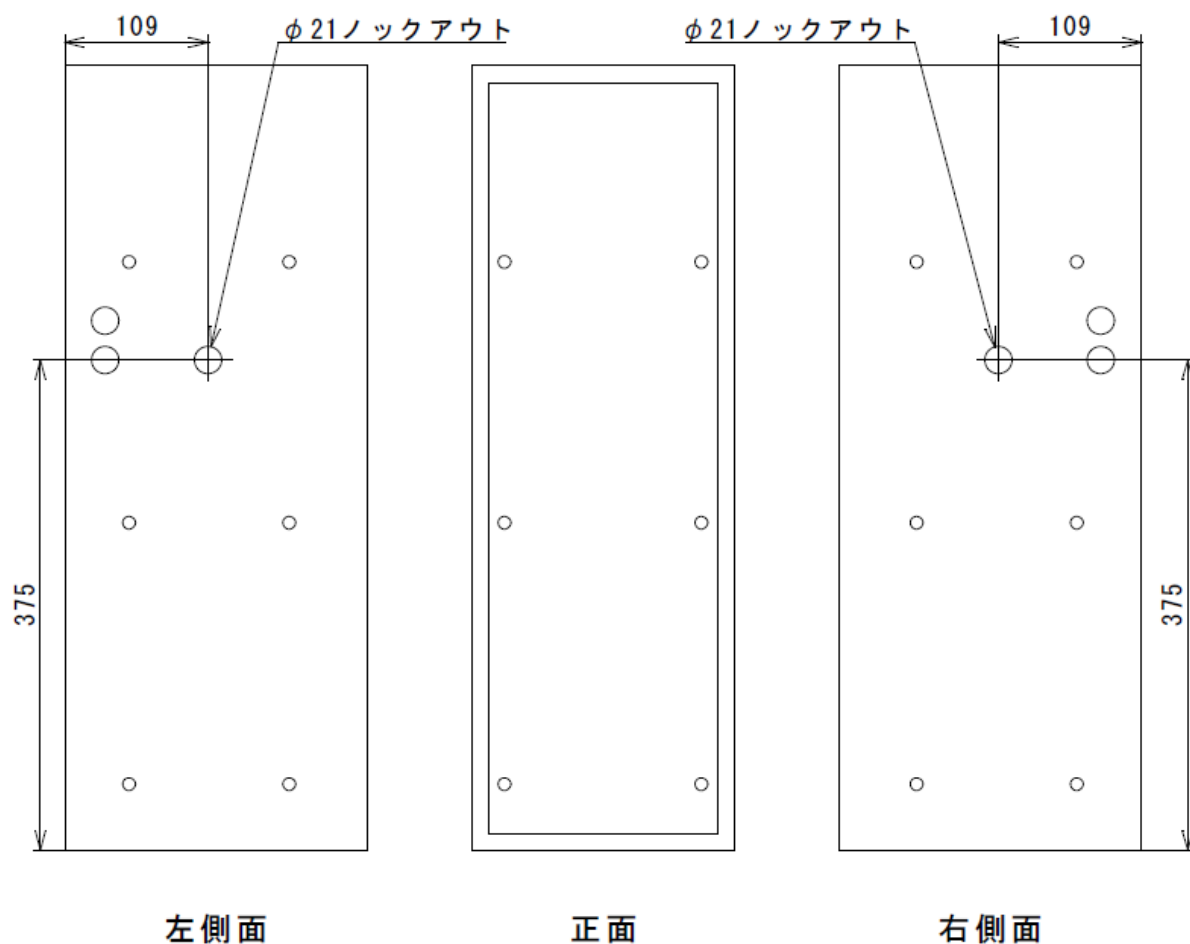


図 8 AHF-3 配管用ノックアウト寸法（単位：mm）

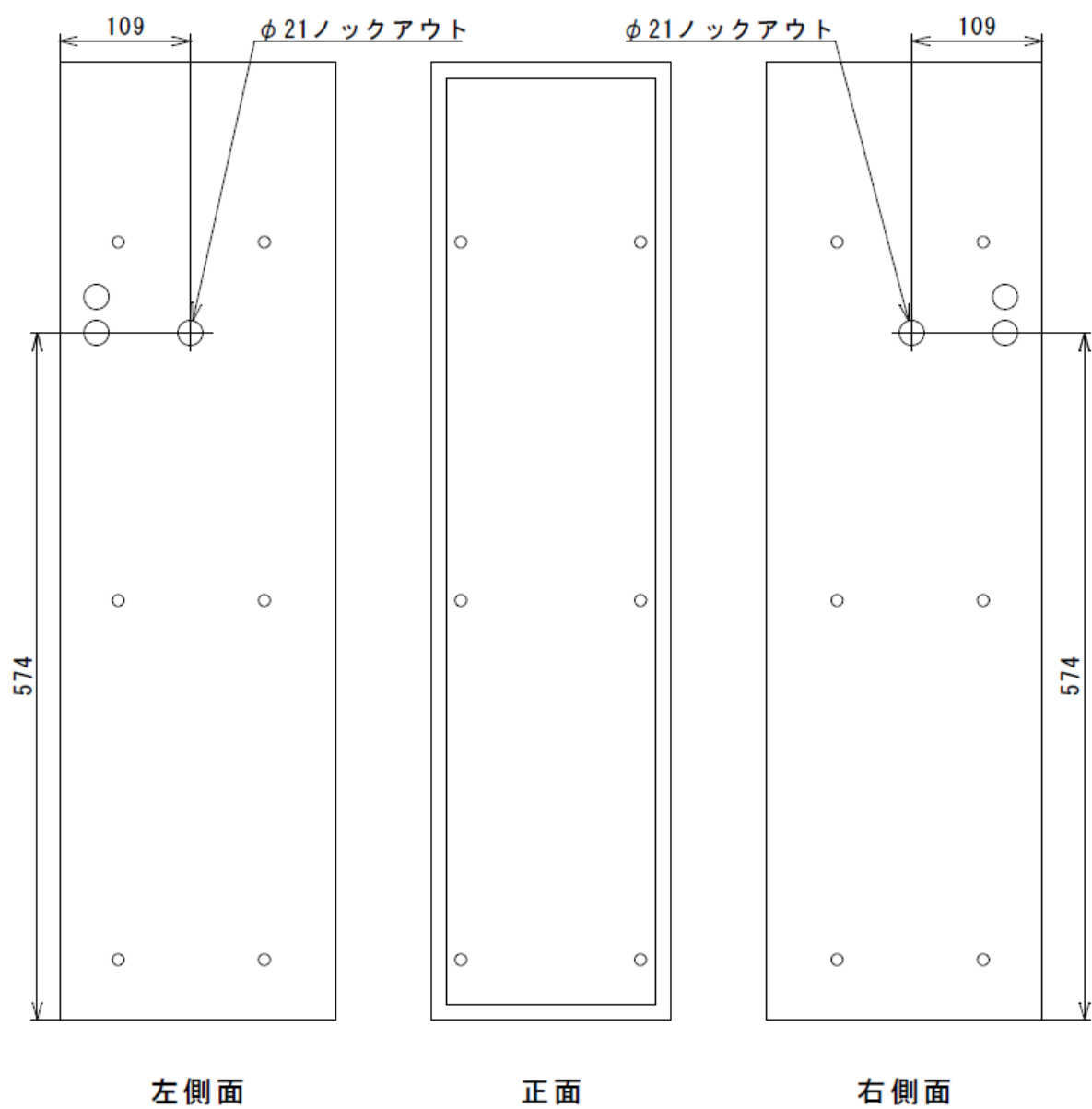


図 9 AHF-6 配管用ノックアウト寸法 (単位 : mm)

10 配線工事

10.1 システム構成

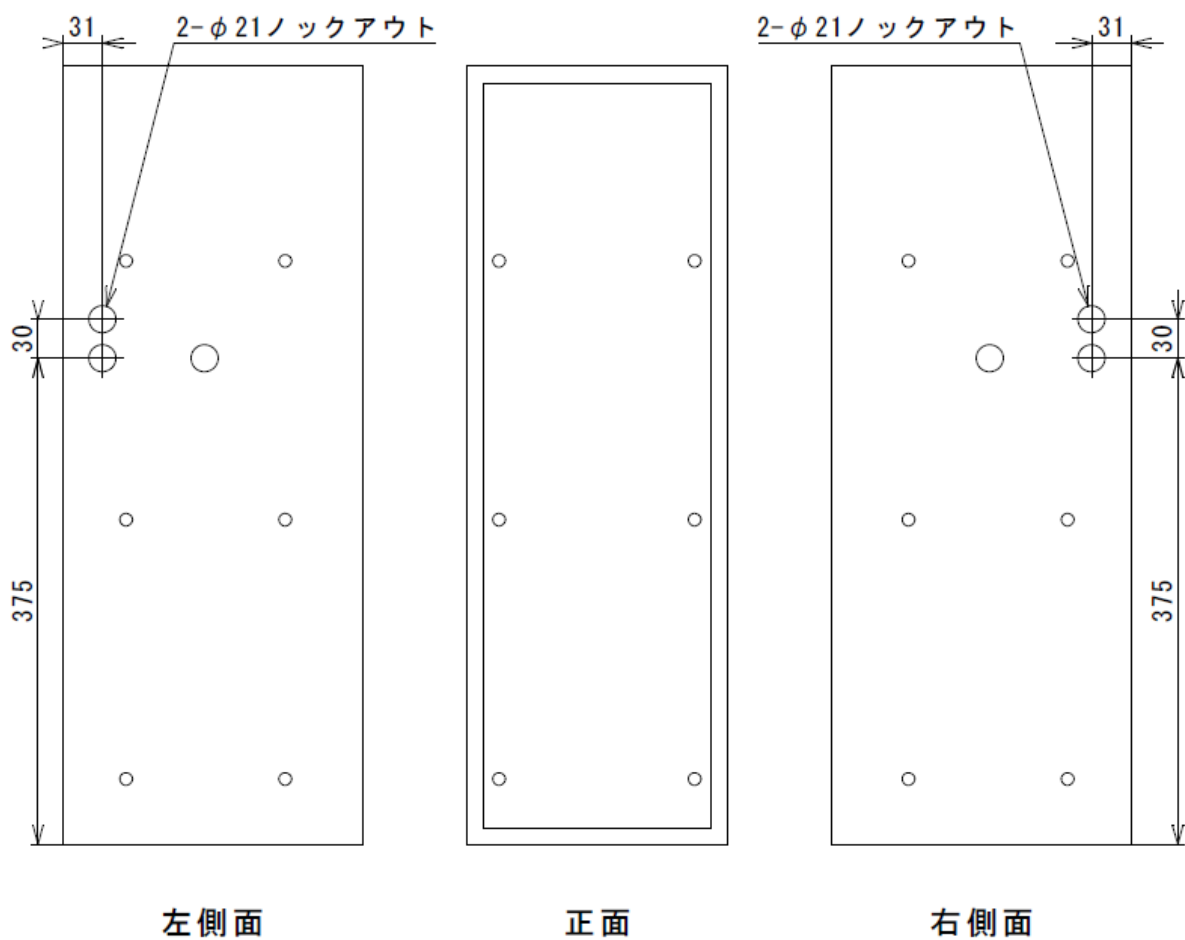
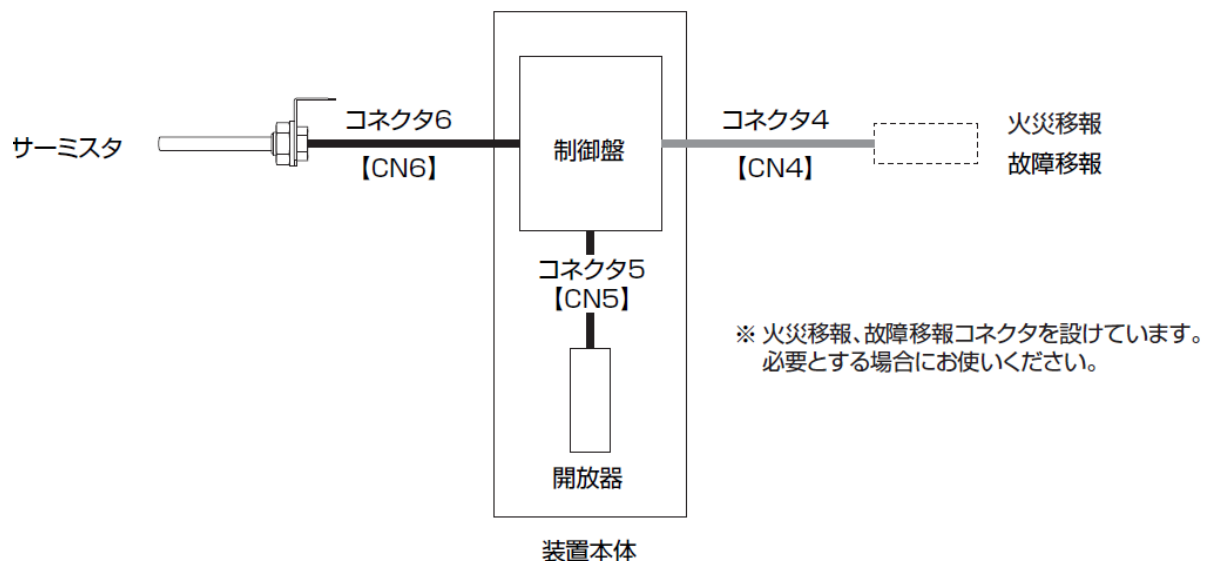


図 10 AHF-3 配線用ノックアウト寸法 (単位 : mm)

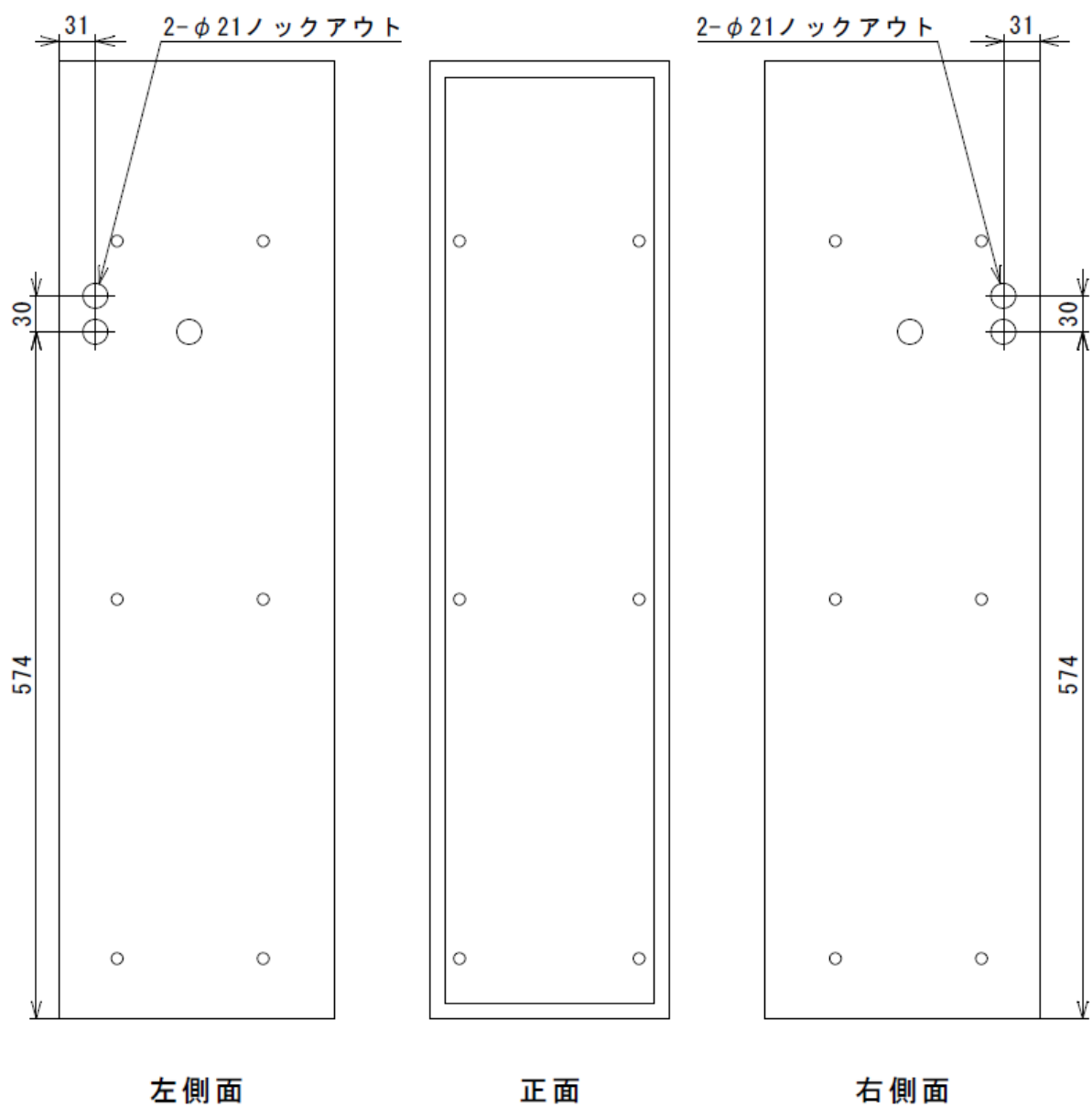
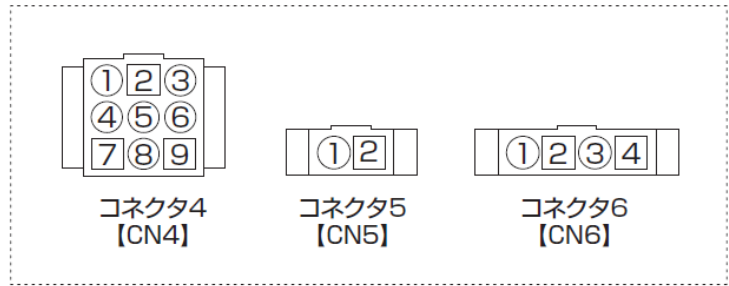
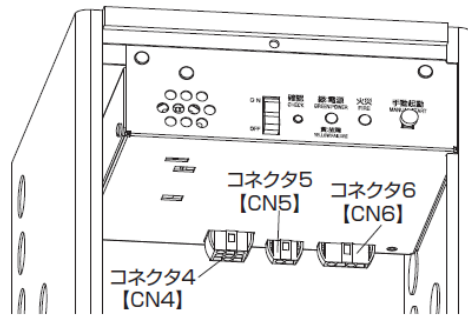


図 11 AHF-6 配線用ロックアウト寸法 (単位 : mm)

10.2 コネクタの名称と機能



コネクタ	番号	用途	名称	説明	適合コネクタ	コンタクト型名	
コネクタ4 【CN4】	1	故障移報	COM1	故障が発生するとCOM1～NC1がOFFします。(b接点)	ELP-09V	LLF-41T-P1.3E × 8本	
	2		NC1				
	3		COM2				故障が発生するとCOM2～NO2がONします。(a接点)
	4		NO2				
	5	火災移報	COM3	火災が発生するとCOM3～NC3がOFFします。(b接点)			
	6		NC3				
	7		COM4	火災が発生するとCOM4～NO4がONします。(a接点)			
	8		NO4				
	9	(未使用)					
コネクタ5 【CN5】	1	開放器	出力(+)	付属の開放器用コネクタ、ケーブルを使用して、開放器と接続します。	ELP-02V	(接続済み)	
	2		出力(-)				
コネクタ6 【CN6】	1	サーミスタ	入力(+)	付属のサーミスタを接続します。	ELP-04V	LLF-41T-P1.3E × 2本	
	2		入力(-)				
	3		未使用				
	4		未使用				

※ 使用上のご注意

火災移報及び故障移報に使用しているリレーは「1a1bタイプ」です。動作時・リセット時にa接点側とb接点側が同時にONになる場合がありますので、ご使用の際はご注意ください。

10.3 コネクタの名称と機能

① サーミスタの接続

サーミスタをコネクタ6【CN6】に接続してください。
(サーミスタは本装置に1つ付属しています)

※ 付属のサーミスタを使用してください。

② 移報の接続

外部の機器に接続し、信号を送る場合はコネクタ4【CN4】に接続してください。

※ 火災移報、故障移報に分かれています。詳しくは上表をご覧ください。(右図は火災移報、故障移報両方を使用した場合です)

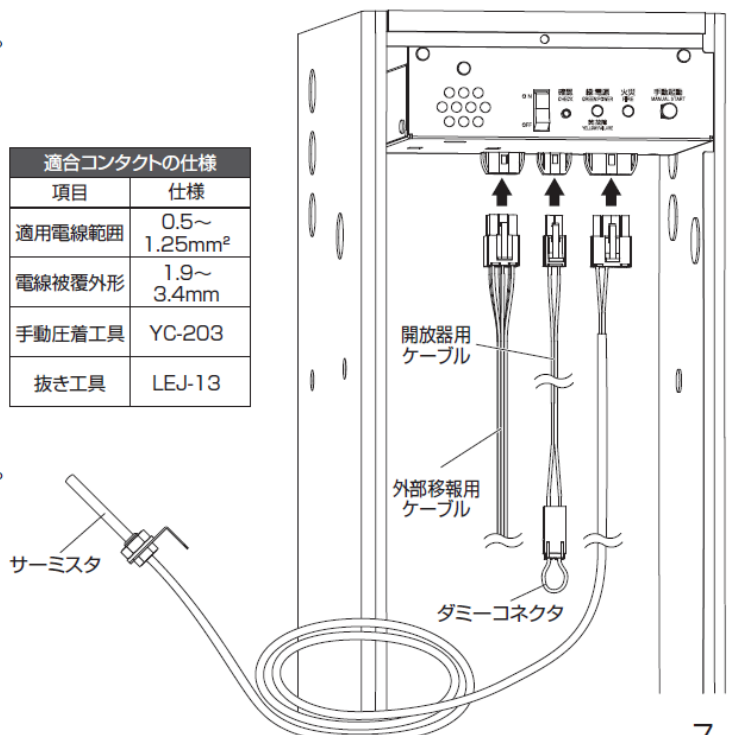
③ 開放器の接続

開放器用ケーブルにダミーコネクタが差し込んであるのを確認し、コネクタ5【CN5】に接続してください。

※ コネクタ5【CN5】には、ダミーコネクタが取り付けられています。作動試験が完了し、開放器を接続するときまで、取り外さないでください。取り外すと電源/故障灯(黄)が点滅し、警報音が断続的に鳴動します。

※ ダミーコネクタは点検時に必要ですのでなくさないように保管してください。

適合コンタクトの仕様	
項目	仕様
適用電線範囲	0.5～1.25mm ²
電線被覆外形	1.9～3.4mm
手動圧着工具	YC-203
抜き工具	LEJ-13



11 作動試験

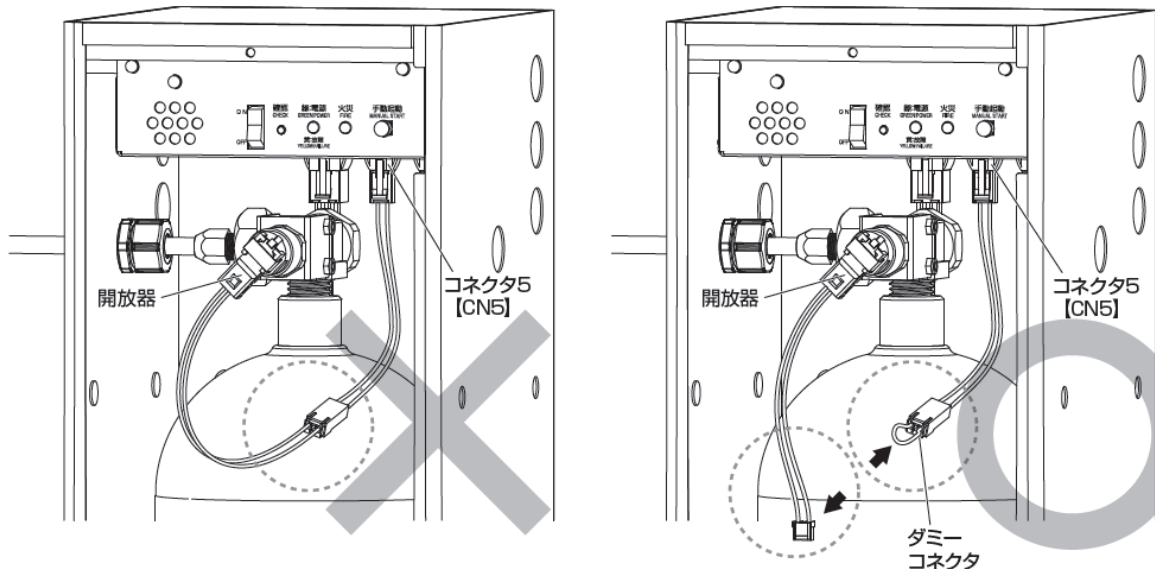
11.1 作動試験前確認事項



警告

作動試験の前に、開放器のコネクタが取り外されていることを、必ず確認してください。接続されていると試験中に消火剤が放射されます。

- ① コネクタ5【CN5】に、開放器のコネクタが接続されておらず、ダミーコネクタが差さっていることを確認してください。
- ※ 作動試験が完了し、開放器を接続するときまで、取り外さないで下さい。取り外すと電源/故障(黄)が点滅し、警報音が断続的に鳴動します。
- ② 開放器以外の配線が、間違いなくコネクタに接続されていることを確認してください。

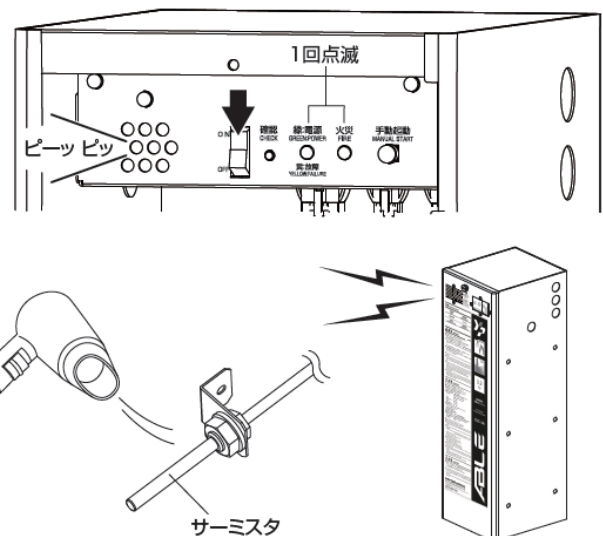


11.2 作動試験

監視状態にする前に、正常に作動するかどうか作動試験を行ってください。手順に従って、サーミスタの熱検知による試験、手動起動押しボタンによる試験を行ってください。

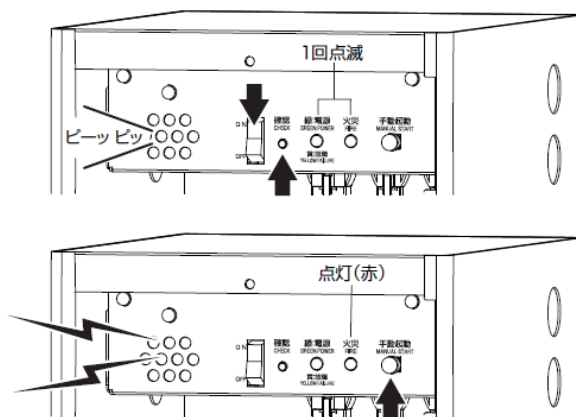
(1) サーミスタの熱検知による試験

- ① 電源スイッチをONにしてください。火災灯(赤)と電源/故障灯(緑)が1回点滅し、ピーツ、ピツと鳴動します。
- ※ 火災灯が点滅しているときは、一度電源スイッチをOFFにし、確認スイッチを押しながら電源スイッチをONにしてください。
- ② サーミスタをドライヤーや温水などで温め(70℃)、火災警報を作動させてください。火災灯(赤)が点滅し、スィープ音(ビュー、ビュー、ビュー)が繰り返し鳴動すれば、正常に作動しています。
- ※ 外部の機器に接続しているときは、接続先の機器が作動しているかどうか確認してください。
- ※ 火傷に注意してください。
- ③ 電源スイッチをOFFにし、電源を落としてください。
- ④ 確認スイッチを押しながら電源スイッチをONにしてください。(リセット操作)



(2) 手動起動押しボタンによる試験

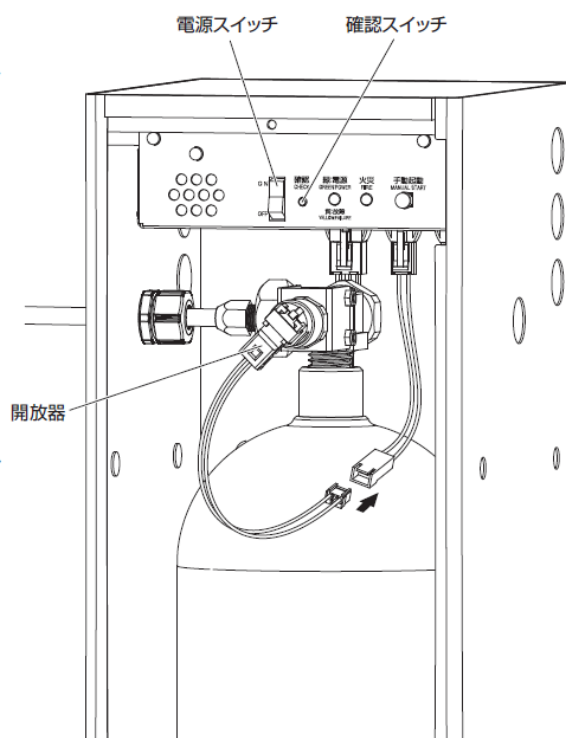
- ① 電源スイッチをONにしてください。火災灯(赤)と電源/故障灯(緑)が1回点滅し、ピーツ、ピツと鳴動します。
 - ② 手動起動押しボタンを押し、火災警報を作動させてください。火災灯が点滅し、スィープ音(ビュー、ビュー、ビュー)が繰り返し鳴動すれば、正常に作動しています。
- ※ 外部の機器に接続しているときは、接続先の機器が作動しているかどうか確認してください。
- ③ 電源スイッチをOFFにし、電源を落としてください。
 - ④ 確認スイッチを押しながら電源スイッチをONにしてください。(リセット操作)



11.3 通常監視状態にセット

警告	通常監視状態にセットする前に、キャビネットが設置場所に確実に固定されていること、配管工事が全て終了していること、貯蔵容器が貯蔵容器固定バンドでキャビネットに確実に固定されていることを必ず確認してください。これらの作業が終了していない間は、通常監視状態にセットしないでください。
警告	通常監視状態にセットする前に、必ず前項「作動試験」の手順で作動試験を行って、本装置が正常に作動することを確認してください。作動試験で正常に作動しない場合は、通常監視状態にセットしないでください。

- ① 電源スイッチをOFFにしてください。
 - ② 電源スイッチをONにして、火災灯(赤)と電源/故障灯(緑)が1回点滅し、ピーツ、ピツと鳴動後、電源/故障灯(黄)が点滅していないこと、火災灯が点滅していないこと、故障警報が鳴動していないことを確認してください。
- ※ 火災灯が点滅しているときは、一度電源スイッチをOFFにし、確認スイッチを押しながら電源スイッチをONにしてください。
- ③ 電源スイッチをOFFにしてください。
 - ④ コネクタ5[CN5]に取り付けられているダミーコネクタを外し、コネクタ5[CN5]に開放器を接続してください。
- ※ ダミーコネクタは点検時に必要です。なくさないよう保管してください。
- ⑤ 電源スイッチをONにして、火災灯(赤)と電源/故障灯(緑)が1回点滅し、ピーツ、ピツと鳴動後、電源/故障灯(黄)が点滅していないこと、火災灯が点滅していないこと、故障警報が鳴動していないことを確認してください。
 - ⑥ 確認スイッチを長押ししてください。火災灯(赤)が点滅し、スィープ音(ビュー、ビュー、ビュー)が鳴動すれば正常監視状態です。
- ※ 故障灯(黄)が点滅し、それ以外の音が鳴動するときは、「11.故障したときは」(p.13)をご覧ください。
- ⑦ 外蓋閉じてください。

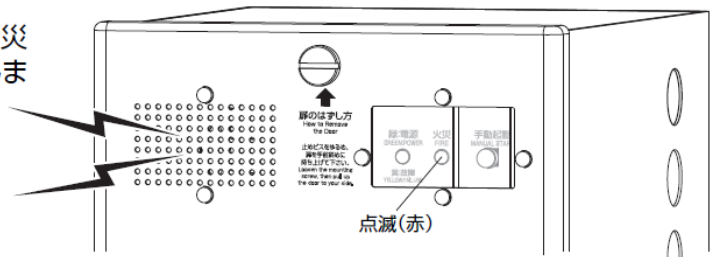


12 火災警報の作動

12.1 自動（サーミスタの熱検知）による消火

サーミスタが70℃以上の熱を感知すると、火災警報状態になり、ノズルから消火剤を噴射します。

火災灯(赤) : 点滅
火災警報音 : ビュービュービュー(スィープ音)

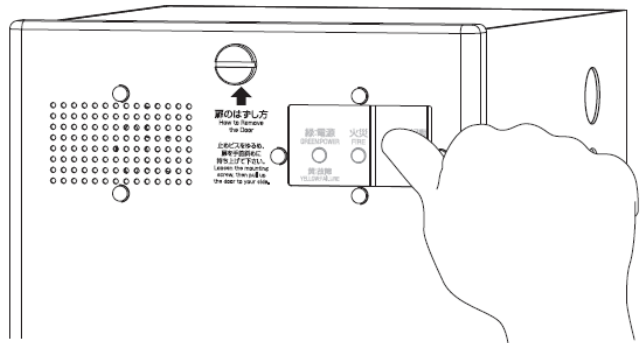


12.2 手動（手動起動押しボタン）による消火

手動で消火剤を放射させたいときは、封板を強く押して割り、手動起動押しボタンを押してください。

※ 火災警報が鳴動し、消火剤が噴射されるまで約2秒かかります。

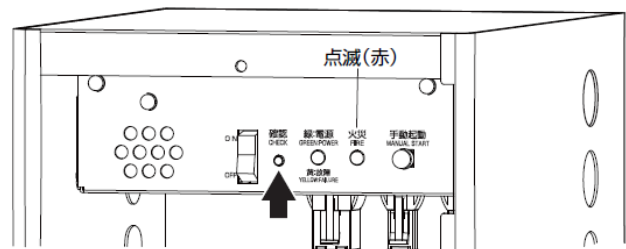
火災灯(赤) : 点滅
火災警報音 : ビュービュービュー(スィープ音)



12.3 火災警報音の一時停止

確認スイッチを押すと、警報音は止まります。

※ 警報音を止めても、火災灯(赤)は点滅を続けます。
コネクタ4【CN4】に外部機器を接続している場合、
外部機器の火災作動はそのまま継続されます。



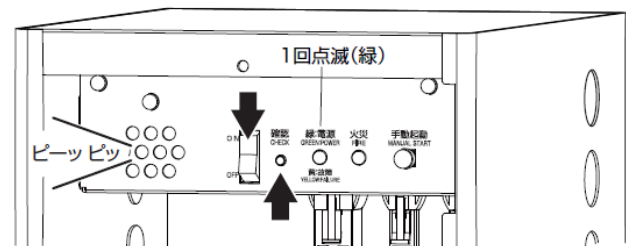
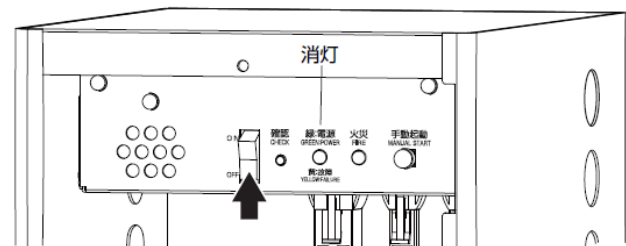
13 火災警報作動後の処置

装置をリセットして通常監視状態にもどし、消火剤を充てん、開放器の交換を行ってください。

- ① 電源スイッチをOFFにして下さい。
- ② 確認スイッチを押しながら電源スイッチをONにして、装置をリセットして下さい。火災灯(赤)と電源/故障灯(緑)が1回点滅し、ピーツ、ピツと鳴動します。

※ 確認スイッチを押さずに電源スイッチをONにすると、火災警報一時停止状態となり、火災灯(赤)は点滅を続けます。

- ③ 消火剤放射後は、消火剤、ノズル部分、サーミスタ、制御部の交換、および装置の機能試験が必要です。点検業者にご連絡いただき、各部の点検と部品などの交換を依頼してください。



14 故障した時の処置

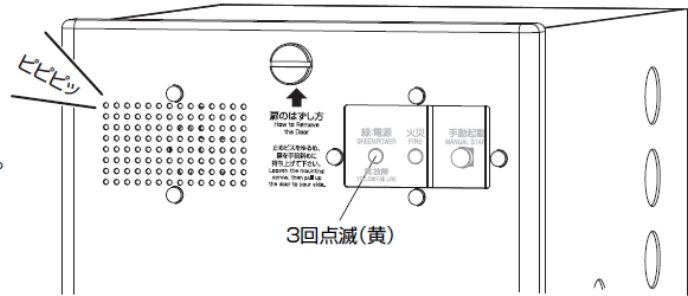
14.1 サーミスタの故障（断線・短絡の場合）

サーミスタが断線・短絡すると、電源/故障灯(黄)が点滅し、ピピピッと鳴動します。

電源/故障灯(黄) : 3回点滅
故障警報音 : ピピピッ

※ 故障状態では、消火剤を噴射できない場合があります。
すみやかにお客様相談窓口までご連絡ください。

確認スイッチを押すと、警報音を24時間停止させることができます。このとき電源/故障灯(黄)は点滅を続けます。



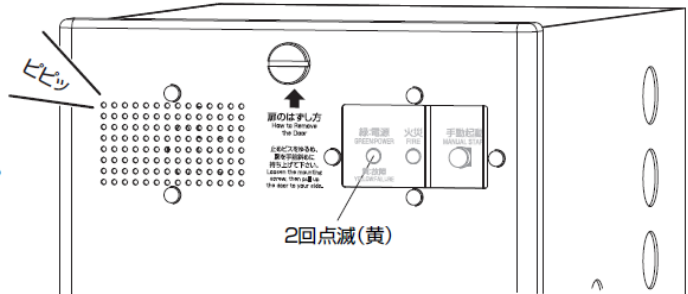
14.2 開放器の故障

開放器が故障すると、電源/故障灯(黄)が点滅し、ピピッと鳴動します。

電源/故障灯(黄) : 2回点滅
故障警報音 : ピピッ

※ 故障状態では、消火剤を噴射できない場合があります。
すみやかにお客様相談窓口までご連絡ください。

確認スイッチを押すと、警報音を24時間停止させることができます。このとき電源/故障灯(黄)は点滅を続けます。



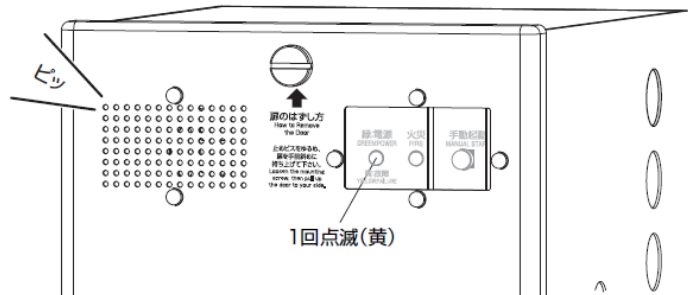
14.3 電池切れの場合

電池切れが近づくと、電源/故障灯(黄)が点滅し、ピッと鳴動します。

電源/故障灯(黄) : 1回点滅
故障警報音 : ピッ

※ 電池が完全に切れると、消火剤を噴射できません。電池切れを検知したら、すみやかにお客様相談窓口までご連絡ください。

確認スイッチを押すと、警報音を24時間停止させることができます。このとき電源/故障灯(黄)は点滅を続けます。



15 部品の交換について

火災により消火剤を放出した場合や設置から長期間が経過した場合は、製品の性能を維持するために下記部品の交換が必要となります。詳しくは弊社あるいは弊社の販売店までご連絡ください。

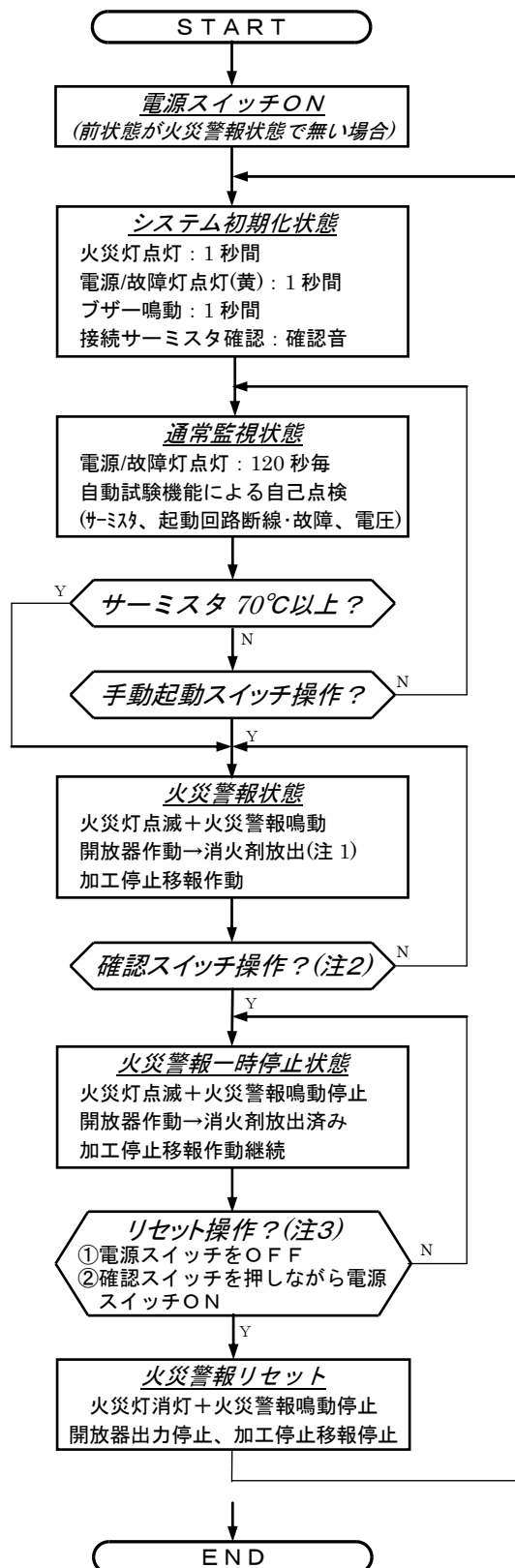
要因	対象	備考
火災により消火剤を放出した場合	ガス発生器	
	開放器	
	消火剤	再充填する
	サーミスタ	
	制御盤	
設置後、4年を経過した場合	ガス発生器	
	サーミスタ	
設置後、8年を経過した場合	全てを、新しいシステムに交換	

16 取り付け時確認事項

チェック項目	設置会社	お客様
施工後のチェック		
本体各機器の取付けおよび固定が完了しているか？		
配管、配線等の施工が完了しているか？		
作動試験前のチェック：16ページ『作動試験の前に』参照		
ガス発生器(CN5)を制御盤から取り外してあるか？		
サーミスタの熱検知による試験：16ページ『作動試験(1)』参照		
電源スイッチを ON にする。		
サーミスタをドライヤー等で加熱する。		
火災警報が鳴動したか？		
移報出力（加工停止、故障移報）は、正常に機能したか？		
確認スイッチを押しながら電源スイッチを ON にし、リセット操作したか？		
手動起動押しボタンによる試験：17ページ『作動試験(2)』参照		
電源スイッチを ON にする		
手動起動押しボタンを押す		
火災警報が鳴動したか？		
移報出力（加工停止、故障移報）は正常に機能したか？		
確認スイッチを押しながら電源スイッチを ON にし、リセット操作したか？		
通常監視状態のチェック：17ページ『通常監視状態にセット』参照		
作動試験は正常に終了したか？		
制御盤(CN5)のダミーコネクタを外し、開放器を接続したか？		
電源スイッチを ON にし、確認スイッチを押して火災警報が鳴動するか？		
故障警報は鳴動していないか？		
外蓋は閉じたか？		
検査実施日		
消火装置製造番号	お客様サイン	

17 参考資料

17.1 動作フローチャート



注 1 :

手動起動スイッチ操作の場合は、火災警報が鳴動してから、開放器作動までに約 2 秒程度掛かります。

注 2 :

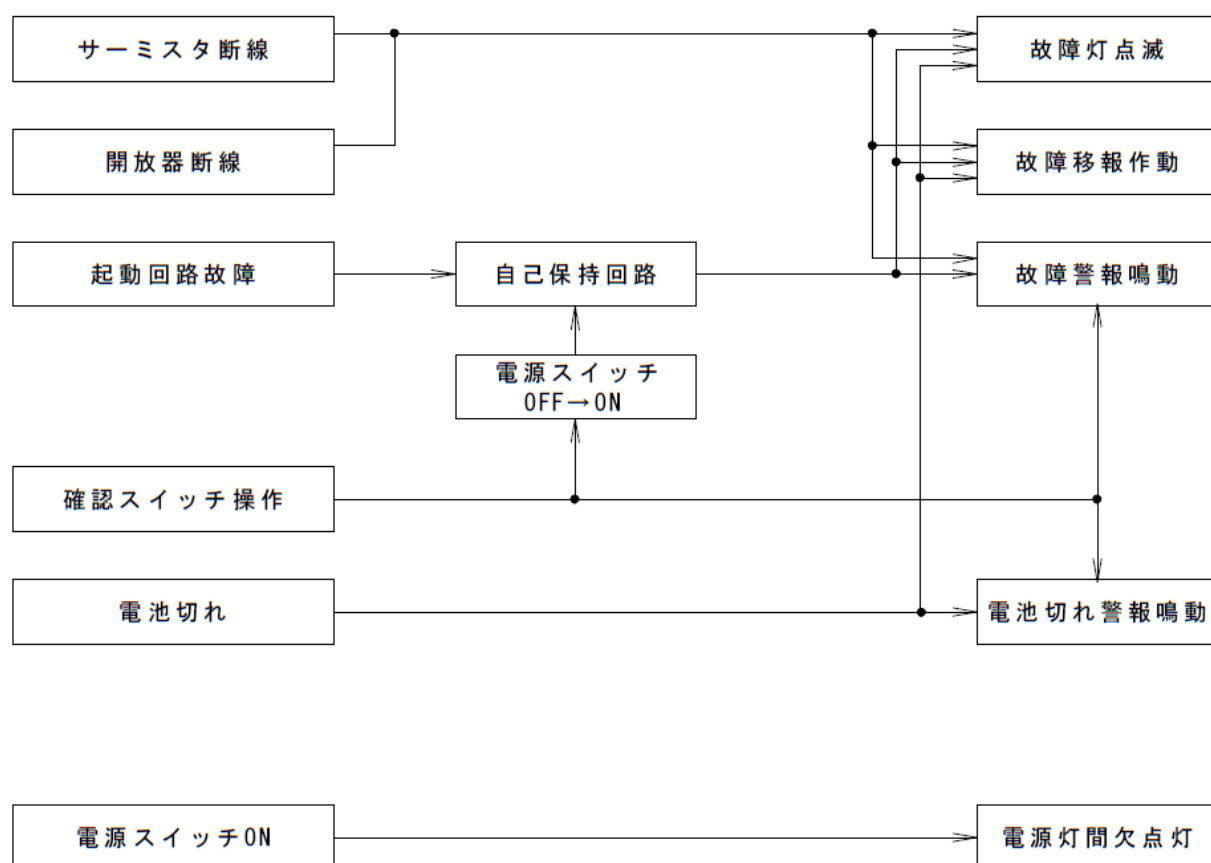
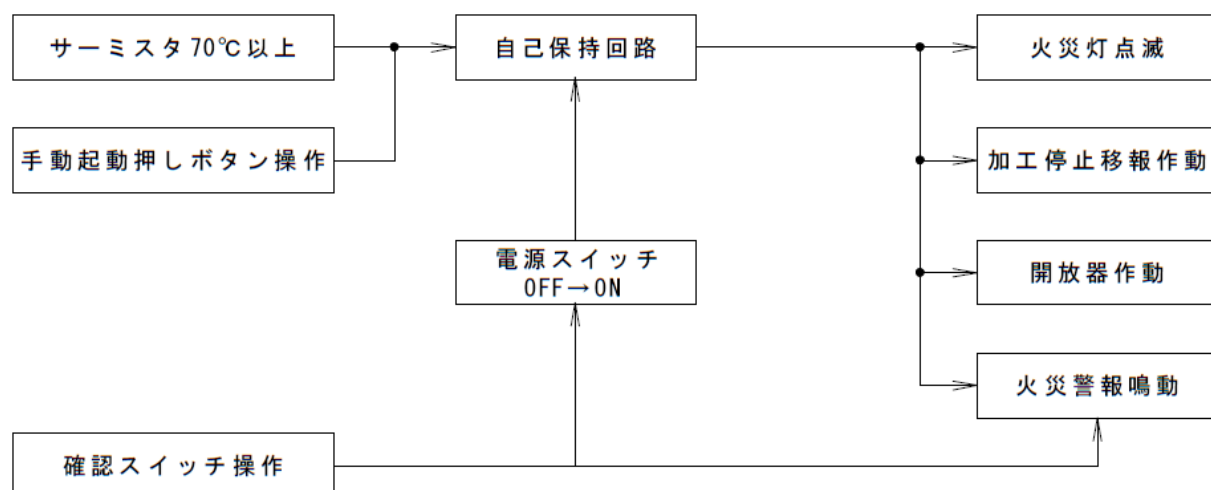
確認スイッチ操作する事無く、直接リセット操作を行う事も出来ます。

注 3 :

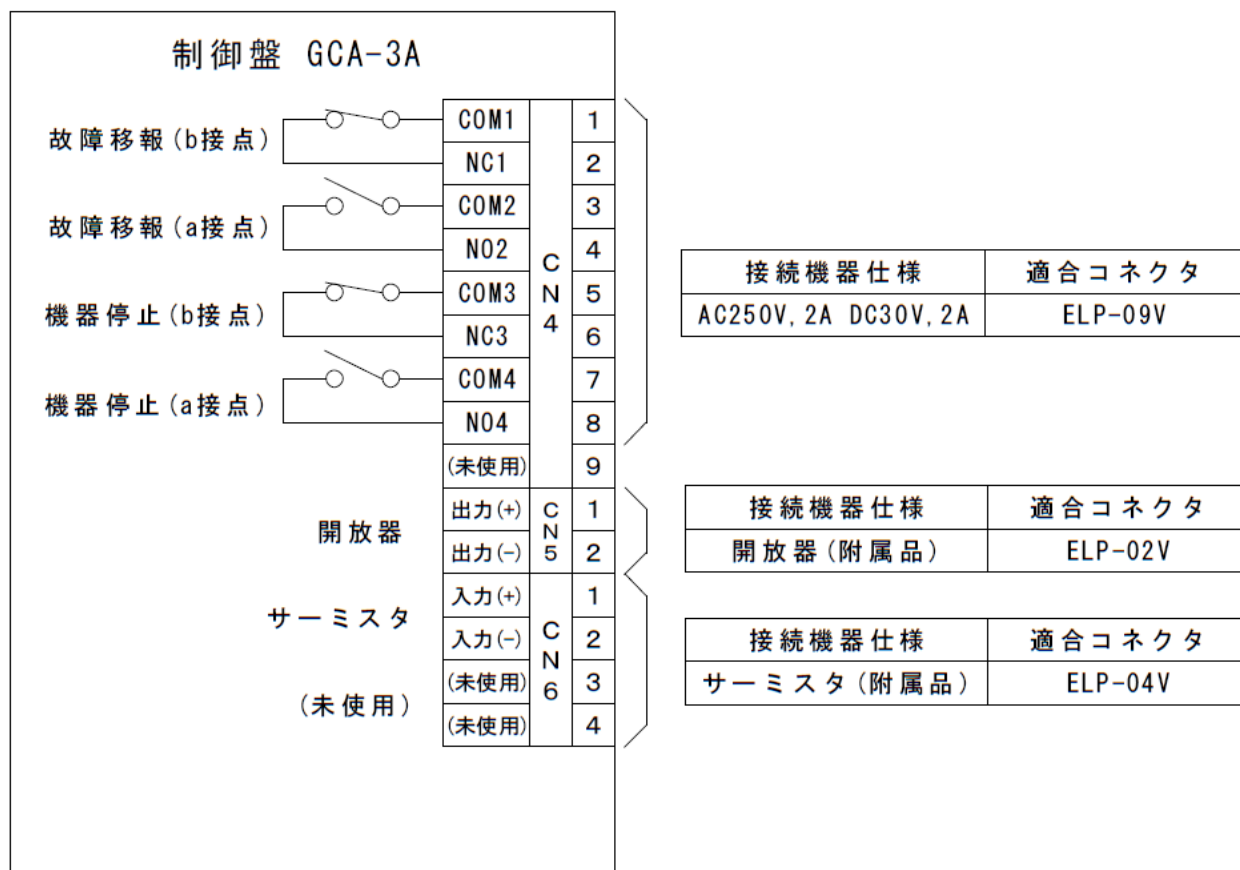
リセット操作を行わず、電源スイッチを ON→OFF→ON した場合、火災警報一時停止状態は保持されます。

図 12 動作フロー

17.2 ブロック図



17.3 外部結線図



コネクタ共通仕様

項目	仕様	備考
適合コネクタ	ELシリーズ	日本圧着端子製造製
コンタクト型名	LLF-41T-P1.3E	日本圧着端子製造製
適用電線範囲	0.5～1.25mm ²	
電線被覆外形	1.9～3.4mm	
手動圧着工具	YC-203	日本圧着端子製造製
抜き工具	LEJ-13	日本圧着端子製造製

ヤマトプロテック株式会社

全国事業所一覧

東京本社	〒108-0071	東京都港区白金台5-17-2	TEL:03-3446-7151
大阪事業所	〒537-0001	大阪市東成区深江北2-1-10	TEL:06-6976-0701
名古屋支社	〒462-0032	名古屋市北区辻町5-58	TEL:052-914-2381
札幌支店	〒065-0027	北海道札幌市東区北二十七条東19丁目1-1	TEL:011-780-1700
仙台支店	〒984-0012	宮城県仙台市若林区六丁の目中町6-1	TEL:022-287-9531
さいたま支店	〒331-0812	埼玉県さいたま市北区宮原町1-68	TEL:048-652-1345
横浜支店	〒241-0031	神奈川県横浜市旭区今宿西町426-1	TEL:045-954-4411
静岡支店	〒422-8005	静岡県静岡市駿河区池田231-1	TEL:054-263-0119
広島支店	〒733-0005	広島県広島市西区三滝町7-4	TEL:082-237-4625
松山営業所	〒791-1102	愛媛県松山市来住町1477-1	TEL:089-956-2101
福岡支店	〒812-0893	福岡県福岡市博多区那珂5-7-12	TEL:092-411-4224

<http://www.yamatoprotec.co.jp>

お客様相談窓口 : 0570-080-100

受付時間: 9:00~17:00(土・日・祝日・国民の休日を除く)

※お問合せの際には、対応に万全を期する為に商品名、型式、製造番号をお尋ねする場合があります。

2011 年 11 現在